⑩公開特許公報(A) 平2-4651

®Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

每公開 平成2年(1990)1月9日

B 65 D 30/16 B 31 B 1/64

3 2 1

8208-3E 8818-3E

寒杏請求 未請求 請求項の数 2 (全4頁)

会発明の名称

スタンドパツク及びその製法

②特 顧 昭63-144725

22出 願 昭63(1988)6月14日

@発 明 者 赤 裚

Α

東京都千代田区有楽町1丁目1番2号 旭化成ポリフレツ

クス株式会社内

明 ф 上 @発 者

人

実

東京都千代田区有楽町1丁目1番2号 旭化成ポリフレツ

クス株式会社内

@発 明 者 願

の出

柏倉

井

建三

埼玉県 ト 尾市平塚2102 旭化成ポリフレックス株式会社内 東京都千代田区有楽町1丁目1番2号

旭化成ポリフレツクス

株式会社

個代 理 人 弁理士 鈴木 定子

细

1. 発明の名称

スタンドパックおよびその製法

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 一方の端部が1本の外折線と該外折線両側の 2本の内折線とからなる折込み襞であり、他の3 方が融着されているプラスチックフィルム製密封 袋であって、プラスチックフィルムの上記折込み **壁となる部位の外面の全部または一部に融着材料** が積層または燃布されていることを特徴とするス タンドパック.

(2) プラスチックフィルムの外面の中央部に融着 材料を積層または塗布し、該融着材料を積層また は塗布した部位を襲状に折込んだ状態で、所定部 位を熱融着して連続した袋を形成し、袋と袋が連 統した融着部位を切断することを特徴とするスタ ンドパックの製法。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、底に別に切断した材料を融着する手。

間を省略して、単一の連続フィルムを用いて効率 的に製造することのできるスタンドパック及びそ の製法に関する。

(従来の技術)

スタンドパックは底が広く、起立性があるため 内容物がこぼれ難く、粉体や流体のようにこぼれ た時に扱い難い内容物の収納に適している。更に ジッパー付のスタンドパックは開封後もこぼれな いばかりでなく、開封口を再密封することができ るため内容物を別容器に移す必要もなくきわめて 扱いやすい密封袋である。

従来、このようなスタンドパックは袋の底に、 袋本体とは別に切断した素材を融着することによ り広い底と下方に突出する融着部を設けて製造し ていた.

(発明が解決しようとする技術課題)

上記方法によれば、底に本体とは別に切断した 素材を融着するという複雑な工程が入るため、巻 回された連続シートにタテ融着とヨコ融着を行い ながら内容物を充填していく自動製袋充塡機を使 用することができない。したがって、包装工程が 煩雑であるばかりでなく包装速度がきわめて小さ く、包装経費が高み、その使用範囲は限定されて いた。

(課題解決の手段)

中央部に1本の外折線とその両端に等間隔に2本の内折線を設けてフィルム内部に折たたまれた襞を形成しなから供給されるフィルムに通常の自動製袋充塡機と同様にしてタテ融者とヨコ融着切断を施して自動製袋充塡する。製品密封袋において襞は袋の底となる。

自動製袋充塡機に供給するプラスチックフィルムは、フィルムを折たたんでいく際に内面となる一方の面だけに融着材料が積層或いは塗布されているものである。両面特に外面に施した場合には加熱された部位に接触したときにフィルムと機械或いはフィルム同士が接着し、取扱いが困難になるため採用しがたい方法である。

したがって、通常のフィルムを使用するとたとえいませいでも製造された袋の側部融着部の下端においては襞の始まる部位から融着部が二又に別れる。すなわち、この部位においては袋本体を形成する2枚のフィルムと折込まれた装素材の2枚のフィルムと合計4枚のフィルムを一体に融着することができない。

本発明の密封袋の素材はプラスチックであれば 特に限定はない。比較的入手が容易で腰のあるや や厚めのフィルムが好ましい。例えばポリエステ ル、ナイロン、ポリプロピレン、或いはこれらの 積層体、これらと他の素材との積層体が挙げられ、 ガスバリヤ性を向上させるためにはポリ塩化ビニ リデンやアルミ箔などとの積層体が使用される。 融着により密封袋を製造するには、フィルムの袋 の内側となるべき面、すなわち内面に溶融温度が 低く、加熱した際の融着性に優れ、食品に悪影響 を及ぼさない融着材料を積層または塗布する。融 着材料としては、低密度ポリエチレン、低重合度 ポリプロピレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体 などが好ましい。その他プラスチックフィルムを 強固に接合できる、いわゆるホットメルト接着剤 など公知の融着材料はすべて使用される。

自動製袋充填機においては巻回したフィルムを 巻戻し、二つ折しながらタテ融着し、ヨコ融着・ 切断工程と充填工程とを繰返して製造している。 本発明にあっては、フィルムを単に二つ折せずに、

本発明の袋は通常の袋に実施してもよいが、ジッパー付の3方シール型の袋に実施すると更に有利である。前もってジッパー爪を融着したフィルムはトラバース巻きと呼ばれる、巻回するフィルムの肉厚部が真下に巻回されているフィルムの肉

厚部に重ならないようにずらせて斜めに巻回し、 極限に達するとずれ方向を反転する方法により巻 回することができる。巻回されたフィルムであれ ば自動製袋充填機により取扱うことができる。 (作用)

本発明は、自動製袋充填機にかけるべき巻回したフィルムの一方の端縁部に襞を設け、この襞内にのみ、フィルムの表面にまで融着材料を積層または塗布してある。フィルムの両面に融着材料を積層または塗布すると、フィルムの表面が機械の各種の部位に付着して取扱い困難であるが、襞の中に折込まれる部位に限定されているため加熱されても表面に粘着性がないため上記の弊害がない。

一方、底に襞を設けたのみであっては底は広くなるが起立性を付与するには充分でない。袋の両脇の側部融着部は表面に融着材料が積層または塗布されていない場合には二又に開いた状態となるが、襞内にのみ融着材料を表面まで積層してあるため、4枚のフィルムが一体に積層し、しっかりした側部融着部と内折線内部の広い底とにより袋

本実施例では、融着材料として低密度ポリエチ レンフィルムを積層した。全工程において不本意 な粘着がなく、通常の自動製袋充填と同等の製造 速度を維持することができた。

(効果)

に起立性を付与することができる。

(実施例)

第1図は本発明スタンドバックの開封前の斜視 図、第2図は製造工程を示す説明図、第3図は第 2図の1点鎖線で示す部分の拡大図である。

1は外折線2及び内折線3、4により袋本体のフィルム5、6内に折込まれたV字形の襞であり、2枚の襞素材7、8よりなる。フィルムの両端部にはジッパー爪9が設けられている。自動製袋充塡機にフィルムを供給し、中央部に襲1を形成の端縁のをタテ融着し、袋の上部融着部10とする。一定量の内容物をホッパーから充塡した後ョコ融着部の中央部を切断し、側部融着部11を形成し、連続的に充塡密封袋を製造した。12はココ融着部の中央部の切断線である。

襲1は第3図に示すようにフィルム素材13の 内面に融着材料14を積層してある。更に、襞素材7、8にはフィルム表面にも融着材料14を積 層した。フィルムをヨコ融着すべく加熱すると、

本発明によれば、側部融着部の下端においては、 一体に融着された4枚のフィルムとその間の内折 線により充分な起立性を有する。しかも、自動製 袋充環機に襞を折込む機能を付帯させるのみで効 率よくスタンドパックを製造し、且つ製造と同時 に内容物を充壌することができる。

4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示し、第1図はスタンドパックの開封前の斜視図、第2図は製造工程を示す説明図、第3図は第2図の1点鎖線で示す部分の拡大図である。

図面中、符号

1は襞、2は外折線、3、4は内折線、

5、6はフィルム、7、8は發素材、

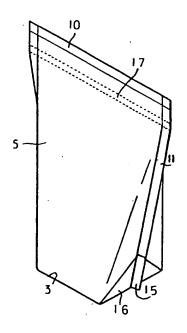
9 はジッパー爪、10は上部融着部、

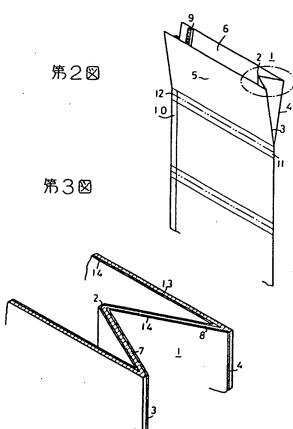
11は側部融着部、12は切断線、13はフィルム素材、 14は融着材料、15は4枚融着した部位、

17はジッパー部である。

特許出願人 旭化成ポリフレックス株式会社 代理人 弁理士 鈴 木 定 子

第1図





PAT-NO:

JP402004651A

DOCUMENT-IDENTIFIER:

JP 02004651 A

TITLE:

STAND PACK AND ITS MANUFACTURE

PUBN-DATE:

January 9, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

AKAI, YOSHIAKI NAKAGAMI, MINORU KASHIWAKURA, KENZO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

ASAHI KASEI PORIFURETSUKUSU KK

N/A

APPL-NO:

JP63144725

APPL-DATE:

June 14, 1988

INT-CL (IPC): B65D030/16, B31B001/64

US-CL-CURRENT: 53/451, 383/104

ABSTRACT:

PURPOSE: To make a continuous manufacture by an automatic bag making and packaging machine possible by laminating or applying a fusion material at the center of the outer surface of a plastic film and heat sealing a predetermined part while keeping the laminated or applied part under a pleated condition.

CONSTITUTION: A V-shaped pleat 1, which has been folded in films 5, 6 of a bag main body by an outer folding line 2 and inner folding lines 3, 4, is made

of two pleating members 7, 8. At the both ends of the film, a zipper teeth 9 are been provided. A film is supplied to an automatic bagging packing machine, at the center, the pleat 1 is formed, the zipper teeth 9 are engaged and an edge outside of the zipper tooth is heat sealed longitudinally and made an upper fused part 10 of the bag. After packing a fixed amount of content from a hopper, a lateral fusion is done, and at the same time, the center of the lateral fused part is cut to form a side fused part 11. Thus, a packed sealed bag is continuously manufactured The center of the lateral fused part is cut off by a cutting line 12.

COPYRIGHT: (C)1990, JPO&Japio